

# 今の社会が求める人づくり ―新しい大学入試と本校の全人教育―

山口県立下関中等教育学校 校長 大 木 至

## 1 今の社会が求める人とは

2020（平成32）年度から始まる新しい大学入試をリードしている方が、慶應義塾大学前学長の安西祐一郎先生です。安西先生は、認知科学者であり、認知科学（人間の心）と脳について研究を深めてこられました。

読売新聞は2012（24）年12月に教育ルネサンス「世界と大学」という特集記事をシリーズで掲載しました。私は特集の中の「学生の主体性 伸ばせ」という安西先生のインタビュー記事に極めて鮮烈な印象を受けました。何故なら、厳しい時代認識の中でこれからの教育のあるべき姿を端的に示されていたからです。そして、この教えは私の学校づくりの原点の一つになっています。

安西先生は言います。

「今はグローバル時代。人や金、情報が地球規模でスピーディに移動する中で生き抜ける人を育成しろと、大学は求められている。」

「育てるべきは、どんな人材か。自分で人生を切り開いていく『主体性』を持つ人だ。人生の節目で迫られる判断の基準になる『教養』もいる。従来型の一方向的な講義では育たない」

「どんな授業か。学生が主体的に学べる、社会を投影した授業だ。今年、ある証券会社が大学1年生に対して『社会貢献のための投資計画を立てなさい』という課題を出した。学生はチームを作り、調査・研究や議論を重ね、何とか考えをまとめた。企業からは『そんな案は、社会に通用しない』と一喝されたが、正解の見えない問いを考える過程で、学生は学ぶ面白みや意味を体感し、目の輝きが変わるのだ」

大学入試だけが変わるわけではありません。日本がグローバル社会で輝き続けていくために、今、安西先生をリーダーとして、大学教育改革、新学習指導要領による高等学校教育改革、大学入学者選抜改革が一体となって進められています。特に、大学入試は現時点においても、東京大や京都大での推薦入試の導入、小論文や集団討論、面接等の積極的活用など、大きな変化の渦中にあります。

## 2 新しい大学入試では

上記のように、日本の未来を担う人づくりを推進するために、従来の「知識・技能」を重視した選抜から、十分な「知識・技能」を土台としながら、「思考力・判断力・表現力」、さらに「学びに向かう力・人間性等（多様な人の中で主体的に協働できる力）」が評価される選抜に変わっていきます。本当に大きな変化です。

「センター試験」が「大学入学共通テスト」に変わり、国語・数学に各3問程度の記述式問題が加わり（36年度からは地歴・公民、理科においても）、英語は「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能評価、民間資格試験の活用へと舵が切られ、各科目の選択式問題にあっても「思考力・判断力・表現力」を問う内容が出題されるようになったことは、日々の授業も大きな変化を迫られることとなります。

また、それ以上に、2020年度から導入される「調査書」様式や、受験生本人が自

己アピールする「活動報告書」様式も劇的とも言える変化だと考えています。

新調査書では、「指導上参考となる諸事項」の欄が次の項目について、各学年の取組をそれぞれ記入することとなります。調査書は学校が責任をもって記載するものです。まず、項目を示しておきましょう。

- ①学習における特徴等、②行動の特徴、特技等、③部活動・ボランティア活動、留学海外体験等、④資格取得・検定等
- ⑤表彰・顕彰等の記録（各種大会やコンクール等の内容など）、⑥その他（生徒が自ら関わってきた諸活動等）

まさに、人物重視の評価への大転換です。学業に加えて、生徒会活動や部活動、ボランティア、留学・海外体験、資格取得などを継続的に積み重ね、自分自身を磨いていく必要があります。

次に、「活動報告書」の中身を見てみます。上記の調査書に記載する内容に加えて、「総合的な学習の時間」で取り組んだ内容について、さらに、「課題研究等に関する活動」として一頁に渡っての記載が求められています。

### 3 本校の6年間の全人教育

このような新しい動きに対して、また、日本の未来の一翼を担う人材となるために、本校は十分に対応できているのか、本校の現在の教育活動を振り返ってみてください。

生徒会活動・委員会活動や部活動は、過去から盛んです。ボランティア活動も年々充実してきました。社会貢献として行うボランティアがもっとあるといいでしょう。海外語学研修も資格取得も取組があり、1回生から始まるカナダ語学研修など新たな展開もあります。昨年度から実施している5回生での卒業研究・大学等ゼミ訪問は、全員が参加する全国的にも稀な探究活動であり、今年キャリア講演会に来ていただきました外務省職員の村田真一さんからも大絶賛をいただきました。

このように本校は、豊かな人間性と困難を突破する人間力の育成とともに、思考力や表現力を高め、課題発見・解決力を育てる探究活動も積極的に取り入れた全人教育を行う学校として大きく成長してきました。

まだまだ完全ではありませんが、生徒の皆さんが日本の一翼を担う人材となって世界に羽ばたくために、また、新しい大学入試に十分に対応できるよう、仕組みは整っています。

### 4 おわりに —成長することとは志を育み日々向上すること—

本校の教育活動を生かすことができるかは、生徒の皆さん一人ひとりの努力にかかっています。下関中等教育学校での6年間、自分の好きなことだけに取り組むのではなく、日本や世界の最新の動きを学び、世のため人のために尽くすという志ある人生を考え、挑戦してほしいと思います。それが、本校の校是「飛翔」の示す本当の意味だと確信します。

日々努力し向上し、今を変えれば必ず未来が変わります。努力すること、頑張ること、自分自身を鍛えることを貫いてほしいと思います。下関中等教育学校は、このような生徒の集団であってほしいと思います。生徒の皆さんが、日々謙虚に未来に繋がる一日を生き、大輪の花を咲かせることを強く強く期待しています。